

2017年7月7日

平成29年度第1回 海岸工学委員会議事録

開催日時：平成29年6月20日（火）14:00～17:00

開催場所：土木学会 2F 講堂（東京都新宿区四谷1丁目 外濠公園内）

出席者：柴山顧問，青木前委員長，佐々木前幹事長，岡安新委員長，後藤新副委員長，田島新幹事長，天野，荒木，入江，岩前，大村，岡田，小野，柿沼，川崎，比嘉（鈴木代理）桐，小竹，高橋，武若，津田，富田，内藤，原田，松本，宮武，村岡，森，山本，横木，陸田（以上委員），有川，太田，小笠原，加藤，北野，重松，西畑（片山代理），瀬戸口，高川，中嶋，松山，渡部（以上委員兼幹事）

資料：

- ・ 平成29年度第1回海岸工学委員会議事次第（資料1）
- ・ PowerPoint資料（資料2）

審議報告事項：

1. 委員紹介

- ・ 委員の自己紹介を行った。
- ・ 委員長指名委員（川崎，高橋，津田）の紹介が行われた。
- ・ 以下の委員の紹介・派遣交替の説明がなされた。
 - 土木学会論文集B部門の合同編集小委員会委員の交替：内山→小笠原
 - 環境システム委員会派遣の交替：作野→上月
 - 水工学委員会派遣の交替：武若→岡田
 - 地球環境委員会派遣の継続：津田
 - 継続教育実施委員会eラーニング小委員会派遣：川崎

2. 前回議事録の確認（佐々木前幹事長）

- ・ WEB公開済の議事録を確認した。

3. 議事前報告

① 第63回海岸工学講演会報告（荒木）

- ・ 講演会の記帳者数738名，見学会24名（Aコース），18名（Bコース），懇親会148名であった
- ・ 予算を低く抑えることができたため，次年度委員会予算に繰り越される。

② H28活動度評価結果（佐々木前幹事長）

- ・ H28 年度海岸工学委員会の活動結果は A 評価であった。
- ・ 評価の観点には、①行事参加者数（2624 人）＋②出版物購読者数（39 人）の合計が 2500 人以上であれば A 評価となり、H29 年度の配分額は 1,056 千円となる。

4. 平成 29, 30 年度海岸工学委員会委員長選挙（佐々木前幹事長）

- ・ 委任者および出席者代理者を含む出席委員数が定足数(委員定数の 2/3)に達していることを確認し、「土木学会海岸工学委員会委員長選挙細則(H25.6 改正)」に則り、標記選挙を実施し、以下の結果となった。
 - 予備投票選出者：岡安委員，後藤委員
 - 第 2 回投票選出者：岡安委員
- ・ この結果により、岡安委員が平成 29,30 年度海岸工学委員会委員長に推薦され、岡安委員の承諾をもって決定された。
- ・ 青木前委員長の退任挨拶および岡安新委員長の就任挨拶がなされた。

5. 副委員長の推薦・承認，幹事長の指名，相談役の推挙（岡安新委員長）

- ・ 岡安新委員長の指名の下，以下の通り承認された。
 - 副委員長：後藤委員
 - 幹事長：田島委員
- ・ 佐々木前幹事長の退任挨拶，田島新幹事長の就任挨拶がなされた。
- ・ 相談役として，佐藤元委員長が推挙され，承認された。
- ・ 小委員長の指名は，後日，委員長よりメールで報告されることとなった。

6. 海岸工学論文集第 64 巻応募論文審査（森，原田，田島幹事長）

- ・ 投稿数 362 編（過去 3 年はそれぞれ 382, 381, 373 編）であった。
- ・ 内訳は，通常 359 編（和文 346 編，英文 13 編），企画セッション＋論文掲載 1 編，（和文のみ）企画セッション発表のみ 2 編（和文のみ）であった。
- ・ 査読者（計 116 名）への割り振りは約 15.5 編/人となった。
- ・ 通常号からの発表希望は 2 編（該当合計 6 編中）であった。
- ・ 査読手順とスケジュールの紹介および確認がなされた。
- ・ 企画セッションに投稿された論文の内訳と査読および評価方法について説明がなされた。
- ・ 評価点 18 点以上の論文数 248 編（去年 240 編）および 17 点の論文 39 編（去年 65 編）を合わせた合計 287 編（2016 年 305 編，2015 年 299 編）を採択論文とする案が出され，承認された。
- ・ この 287 編に加え，企画セッション 2 編，通常号 2 編をあわせた合計 391 編が口

頭発表されることとなった。その後、6/14 現在、3 編の辞退申出があり、388 編になる予定。

- ・ 総投稿数および分野別投稿数の経年変化の紹介がなされた。H29 年度の採択率は 79.8% (2016 年 82.3%, 2015 年 78.9%) であった。
- ・ 著者負担金は例年通り、¥40,000 円 (見込み¥36,000 円) を予定していることが報告された。なお、論文集 DVD (¥3,000 円) のみ配布も予定。
- ・ 論文投稿受付のシステム登録上の間違いが 1 件発生したことが報告された。論文審査前に適切に対応がされたことも合わせて報告された。
- ・ 本原稿提出時の辞退論文 2 編について、その理由が紹介された。
- ・ 原稿提出の方法について、昨年度と同様 (最終原稿 PDF のみ投稿者が Author+よりアップロード) とすることが報告された。この PDF を用いて DVD 作成および J-Stage 登録がなされることが報告された。
- ・ 2016 年度に公開した J-Stage 論文のうち、1 編に以下の不備があったことが報告された。
 - 昨秋公開した B2 特集号の中に、ファイルの不具合によってグラフが表示されていない論文ファイルがあり、著者からの指摘により判明した。
 - 原因: J-stage 掲載作業は投稿者が登録した PDF ファイルから始めているため、J-stage に掲載する工程の加工でこのファイルに何らかのトラブルが生じたと考えられる。
 - 対応状況: B 部門合同編集小委員会で審議した結果「修正すべき」と判断し、現在、土木学会研究事業課が対応中。
 - 今後の対策: 全ての PDF 原稿ファイルをチェックする必要がある。しかしながら、担当者の負担が非常に大きいため、複数人による分担作業を検討する必要があるとの意見が出された。今後、具体的な対策協議を行う。

7. 広報小委員会の改組について (田島幹事長)

- ・ 広報・出版小委員会の改組について説明がなされた。
- ・ 具体的な役割分担は、論文編集小委員会が論文査読・J-Stage のアップロードを行い、広報・出版小委員会で DVD 作成・報告 (基本は海岸工学論文集将来検討 WG の範囲) を行うことが報告された。

8. 海岸工学論文集の将来検討について (北野)

- ・ 今年度で、本 WG は解散し出版に関わる活動は広報・出版小委員会で引き継ぐ。
- ・ PDF による Camera-ready になったことで、副査によるフォーマット・チェックがますます重要となる。
- ・ 論文体裁の完成度が低いものは今年度は 1 件のみであった。組版による対応とし、

経費は著者負担（約¥15,000 円程度）とした。

- ・ 組版の判断は、第 2 段階査読で主査から警告し、再査読時に判定することが、改めて確認された。
- ・ スケジュールの見直しを図り、例年に比べ、第 2 段階査読原稿の提出と査読期間を 1 週間程延長、さらに最終原稿を 10 日程延長した。
- ・ 今後取り組むべき課題は、企業広告の促進および海岸工学論文集データベースの作成（討議集込み）となる。→広報・出版小委員会で引き継ぐ。

9. 第 64, 65 回海岸工学講演会企画セッションについて（加藤、田島幹事長）

- ・ 第 64 回のテーマ（2017.10.26）は「流砂系の総合的な土砂管理と海岸保全」、趣旨、オーガナイザーについて以下の報告があった。
 - 前半は、応募発表 3 件（要旨のみ 2 件、論文あり 1 件）に加え、一般セッションから振り替えた発表 2 件、別途依頼する話題提供 2 件で構成する。
 - 後半は、発表者に加え、栗山氏、加藤委員による総合討論（1 時間程度）とする。
- ・ 第 65 回の実施（今後の予定）に関して、企画セッションの設立経緯の確認がなされた後、以下の意見交換がなされた。
 - 隔年開催、横断的（他委員会との連携開催等）なテーマをあげる。
 - 小委員会活動をベースにセッションを立ち上げてもらう。
 - 本企画枠を残しつつ、そのニーズがある場合に開催すればよい。
 - 招待講演者を加えてはどうか。
 - 採択数との兼ね合いから、企画するか否かの判断は 9 月幹事会で承認が望ましい。

10. 第 64 回海岸工学講演会前日シンポジウムについて（田島幹事長）

- ・ 減災アセスメント小委員会で企画することが報告された。詳しくは、後記の小委員会報告の議事録参照。
- ・ 本シンポジウム前に、別企画として、MIT の Ole S. Madsen 教授の基調講演を開催することが提案され、承認された。

11. 第 64 回海岸工学講演会の準備状況について（渡部）

実行委員：山下実行委員長，渡部，猿渡(北大)，宮武(函館高専)，中島，木岡，大塚(寒地土研)

日程：2017 年 10 月 25 日～27 日

会場：TKP 札幌駅カンファレンスセンター(講演会，前日シンポジウム)

見学会：A コース：小樽港・石狩湾新港の見学

B コース：苫小牧港・新千歳空港の見学

懇親会：京王プラザホテル(10月28日)

- ・ 宿泊ホテルについては、1か月前でもホテルが埋まるため、早めの予約が必要とのアナウンスがなされた。

12. 第 65,66 回海岸工学講演会の開催（会場など）について

第 65 回海岸工学講演会について（太田）

実行委員：黒岩実効委員長，大田，金（鳥取大）

日程：2018年11月14日～16日

会場：とりぎん文化会館(鳥取市)

見学会(案)：鳥取砂丘，浦富海岸のサンドリサイクル，砂の美術館

懇親会：ホテルニューオータニ鳥取(11月15日)

第 66 回海岸工学講演会について(柿沼)

日程(案)：2019年10月23日～25日

会場(案)：かごしま県民交流センター（海洋開発シンポジウム(2010年)の開催会場）

- 第1会場は県民ホールが大きいいため，中ホールとする案が出されたため今後検討する。
- 開催日程について，10月開催のみならず，12月開催の可能性を検討する。
- 参加人数と収容人数を踏まえ，会場の割り振りは引き続き再検討する。

13. 第 53 回水工学に関する夏季研修会（B コース）開催について（荒木）

日程：2017年8月31日，9月1日

会場：大阪大学吹田キャンパス

テーマ：A コース：河川の維持管理と流域の保全

B コース：海岸・港湾における構造物の維持管理

- A・B コースで「維持管理」を共通テーマとしつつ，共通の基礎的内容として以下の二つの講義を合同講義とした
 - ①堤防における土粒子－土－地盤構造と水の相互解析
(前田健一教授，名古屋工業大学)
 - ②点検データを活用したアセットマネジメント
(貝戸清之准教授，大阪大学)

14. Coastal Engineering Journal について（渡部）

- ・ 現在の Impact Factor は 0.887(2016)であり，去年 0.703 より上昇した。
- ・ 内山委員を副小委員長として任用し，越村現副小委員長と 2 名体制とした。また，

新たに安田委員を任用し、Kortenhaus(Gent U)が編集員を辞任した。

- ・ 以下の出版状況が報告された。
 - 2016 March, Coastal disasters by typhoon Haiyan 2013(Y. Tajima ed., 10 編)
 - 2016 December, The 5th anniversary of the 2011 Tohoku Earthquake Tsunami (T. Takahashi ed., 13 編)
 - 次号 (Climate Impact on Coastal Engineering(N. Mori ed., 8 編予定)
 - 次々号 (Special Issue on Estuarine hydrodynamics and morphodynamics (H. Tanaka, H. Chanson ed., 18 編予定)
 - 2019 年 Special Issue of SPH for Coastal and Ocean Engineering, Organizing Editors: Hitoshi Gotohand Abbas Khayyer
- ・ Coastal Engineering Journal Award の選考手順の説明がなされ、以下の受賞論文の発表がなされた。
 - H. Cai, M. Toffolonand H. H. G. Savenije, An Analytical Approach to Determining Resonance in Semi-Closed Convergent Tidal Channels, Vol 58 No 3, 1650009, 2016.
- ・ JAMSTEC 中西賞について趣旨と選考方法を確認し、以下の論文を本委員会より推薦することが承認された。
 - Y. Tajima, K. H. Gunasekara, T. Shimozonoand E. C. Cruz, Study on Locally Varying Inundation Characteristics Induced by Super Typhoon Haiyan. Part 1: Dynamic Behavior of Storm Surge and Waves Around San Pedro Bay, Vol 58 No 1, 1640002, 2016
- ・ CEJ Citation Award は以下の論文となったことが報告・承認された。
 - SuppasriA, KoshimuraS, Imai K, et al., Damage characteristic and field survey of the 2011 great east Japan tsunami in Miyagi prefecture Vol. 54 No. 1, 1250005, 2012
- ・ 論文掲載数の経年変化が紹介され、2016 年 111 編であった。2017 年は 6/17 現在 50 編であった。
- ・ 今後の CEJ 出版社について、これまでの契約経緯、各出版社の概要、契約後のメリット・デメリットについて、詳細な説明がなされた。その上で、現在の出版社 (World Scientific) もしくは新しい出版社 (Taylor & Francis) のどちらが望ましいかについて、以下の意見交換がなされた。
 - 購読者を増やす観点から出版社を選択すべきである。
 - Back Number の取り扱いについて、WS 側と T&F 側の双方と慎重に協議する必要がある。両社による直接協議も視野に入れる。
 - 引き続き、弁護士を交えた契約書の再チェックを行い、9 月の幹事会で再度協議する。

15. 研究小委員会の活動について

- ① 広報小委員会（川崎）
 - ・ メンバー，活動状況（Web 情報の充実），アウトリーチの充実，討議集の取り扱いについて，報告があった。
 - ・ 継続教育実施委員会 e ラーニング小委員会と連携を図りつつ活動を実施することが報告された。
- ② 沿岸域研究連携推進小委員会（重松）
 - ・ メンバー，プロジェクト「環境問題とその後」，活動資金（土木学会関西支部）について報告があった。
 - ・ 活動状況について，各委員による調査とデータ結果が報告された。
- ③ 津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会（高橋）
 - ・ 目的，メンバー，期間，全体活動について，報告があった。
 - ・ また，今後の活動予定について，以下の通り，紹介がなされた。
 - 「第7回小委員会（2017年10月26日、札幌、開催予定）。
 - 「津波防災研究ポータルサイト」に名称決定。
 - 防災科学技術研究所との共同研究として運用予定。
 - WG1を中心にポータルサイトの構築・運用方法を検討中。
 - 発生・伝播・遡上（WG2），波力（WG3），侵食・堆積（WG4），漂流物・建物倒壊（WG5）に関して論文リストの作成し、重要論文のレビューとベンチマーク問題を作成中。
- ④ 波動モデル研究小委員会（柿沼）
 - ・ メンバー，研究集会，図書出版企画について報告があった。
- ⑤ 減災アセスメント小委員会（岡安）
 - ・ メンバー，期間，主旨，これまでの活動リスト，助成金額および今後の予定について報告があった。
 - ・ 北野委員を追加することが報告された。
 - ・ さらに活動期間を3年延長することが報告・承認された。
 - ・ なお，本年度の海岸工学講演会前日シンポジウム（平成29年10月24日18:00～20:00「津波減災と最適海岸防護施設。津波ハザードの適切評価と後背地の経済・人口変化予測（仮題）」（予定））についても報告があった。
- ⑥ 地域研究活性化小委員会（富田）
 - ・ 委員会の目的とねらい，WG1～WG5のメンバー構成と研究内容，今後の活動予定について，報告があった。
- ⑦ 水理模型実験における地盤材料の取扱方法に関する研究小委員会
 - ・ 設置趣旨，メンバー，WG体制，これまでの活動状況，今後の予定について，報告があった。
 - ・ 今年度8～11月頃，1G場・遠心場の比較実験を予定していることが報告され

た.

- ・ 水谷委員をオブザーバー，荒木委員を小委員長とすることが提案された.

⑧ 各小委員長

- ・ 各小委員会の委員長および副委員長は後日リストによる紹介（メール）を行うこととした.

⑨ 小委員会の新設について（武若）

- ・ 仮称：沿岸域の気候変動影響評価・適応検討に関する小委員会（委員長：武若委員，副委員長：森）について，設立の趣旨，背景，体制，活動期間について説明がなされ，承認された.

16. その他

① レジリエンス確保に関する技術検討委員会について（森）

- ・ 土木学会会長特別委員会が立ち上げたレジリエンス確保に関する技術検討委員会について，期間，概要，委員について紹介がなされた.

② APAC について（武若，田島幹事長）

- ・ APRAC の支援体制（Council, Int. Steering Committee）について紹介がなされた.

③ 第 8 回アジア土木技術国際会議のセッション企画依頼について（田島幹事長）

- ・ 開催期間 2019 年 4 月 16-19 日 in 東京開催，テーマ，セッションスタイルについて紹介がなされた.
- ・ 6/30 までに 1 件以上のセッション提案が求められており，委員から提案がなかった場合には幹事長が検討することとした.

次回の海岸工学委員会は，2017 年 10 月 25 日（水）18:00～，海岸工学講演会会場にて開催予定. なお，幹事会は，2017 年 9 月（日程調整中）14:00-17:00，土木学会にて開催予定.